

氏名 川上 秀太(かわかみ しゅうた)



Profile

氏名	川上 秀太(かわかみ しゅうた)
所属	アスピカ
記録	100m 10秒70=アジア・日本記録 200m 21秒82=アジア・日本記録
障害	視覚障害(T13クラス)
出身	福井県(社南小-至民中-福井工業大学付属福井高-福井工業大学)
指導	内藤 景 コーチ
テーマ	『見えないからこそその気づきが強くした』(自己啓発) 『障害の壁を越えた挑戦』(スポーツ) 『障害は個性でしかない』(人権)

【川上選手より】

小学3年の時に交通事故にあい視力と視野に障害が残った。右目は0.06の中心部の視野欠損、左目は0.03内側半分の視野欠損となった。陸上経歴は、中学1年～現在まで継続し15年目となる。中、高まで自身が、パラ陸上に該当する障害だとは知らず健常者の大会にのみ出場していた。そして、大学3年生の授業で障がい者スポーツに触れたことと、大学4年生時にパラ陸上の第一人者である山本篤さんと交流したことで自分も該当するのか?と気になり調べた結果、該当することを知った。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、色々規制があり、パラ陸上の記録として認められるためのクラス分けが先延ばしになってしまい、もどかしい気持ちのまま大学卒業から2年が経過していた。2023年によくクラス分けを経てT13のクラスが確定し、健常者の大会にも出場しながら並行してパラ陸上での挑戦も始まった。そして念願が叶い、2023年パリ世界選手権の代表に内定したが、直前のけがのため出場を辞退、初の世界大会の出場はかなわなかった。けがを乗り越え迎えた2024年神戸世界選手権で日本・アジア新となる記録で銀メダルを獲得。パリパラリンピックへの出場を果たし、視覚障害の100mでは、36年ぶりとなる銅メダル獲得した。2025年には、ニューデリー世界パラ陸上で自身初となる金メダルを獲得し、全ての色のメダルをそろえることができた。

現在は、2026愛知アジアパラ陸上での金、2027世界パラ選手権での金、2028年ロサンゼルスパラリンピックで金メダル獲得をパラ陸上での目標とし、健常者の日本選手権陸上への出場も目標に「自身の走りを極める」気持ちで挑戦し、今後も並行してパラと健常の大会に出場とともにトップスプリンターとなれるよう活動している。